

(様式6-A) A. 雑誌発表論文による学位申請の場合

大塚 健一 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 The association between nutrition and the functional outcomes of elderly women with acute vertebral compression fracture

(急性脊椎圧迫骨折をきたした高齢女性における栄養と機能的予後の関係性)

THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL :in press (Vol 68, No1に掲載予定)

Kenichi Otsuka, Masayuki Tazawa, Yoko Ibe, Tomotaka Inoue,
Minori Kurosaki, Kenji Shirakura and Naoki Wada

論文の要旨及び判定理由

本研究の目的は脊椎圧迫骨折をきたした高齢女性の予後を身体的、精神的、栄養状態から予測することである。神経筋疾患や心肺疾患などの重篤な併存疾患を有していない脊椎圧迫骨折をきたした75歳以上の高齢女性69名を対象とした。対象患者の入院時における年齢、骨折部位、body mass index (BMI)、握力、1日の食事量、Mini-Mental State Examination (MMSE)、血液検査（アルブミン値、ヘモグロビン値、総リンパ球数、クレアチニンフォスホキナーゼ値、総コレステロール値、コリンエステラーゼ活性値）などを評価項目とした。評価方法としてFIM (functional independence measure) を用いた。FIMの運動項目 (mFIM) が良好だった群と不良であった群に分け、機能予後を予測するための要素を多変量解析の手法を用いて解析した。機能予後良好群は33名、不良群は36名であった。BMI、握力、食事量、MMSE値、アルブミン値、クレアチニンフォスホキナーゼ値、コリンエステラーゼ活性値は良好群が不良群に比べ高値であるのに対し、年齢、発症から入院までの期間、入院期間は不良群のほうが高値であった。多変量解析を行った結果、1日の食事量とMMSEが機能予後に大きな影響を与えることが判明した。これらの結果より脊椎圧迫骨折からの回復においてサルコペニアの合併は障害からの回復の阻害因子となるため、十分な栄養摂取と早期からの筋力増強訓練がリハビリテーションを行う上で重要なことであることが判明した。

この結果は急性脊椎圧迫骨折をきたした高齢女性における栄養と機能的予後の関係性に関して新たな知見を与えるものであり、博士（医学）の学位に値するものと判定した。

(平成30年1月17日)

審査委員

主査	群馬大学教授 (医学系研究科) 分子細胞生物学分野	石崎 泰樹	印
副査	群馬大学教授 (医学系研究科) 臨床検査医学分野	村上 正巳	印
副査	群馬大学教授 (医学系研究科) 整形外科学分野	筑田 博隆	印

参考論文 なし